

丹波市男女共同参画センターだより

パートナーと一緒に考える ウィズコロナ時代の子育て

先日の記事に『男性の育休「取るだけ」ではダメ』（2020/12/6 神戸新聞）とありました。「積極的に家事こなして妻サポート」と見出しがあり、取るだけ育休にならずに必要なスキルを習得したり、役割分担を話し合ったりするなど準備をしておこうという内容でした。佐藤健介さんという男性記者の署名記事であることも興味を持って読みました。

育児休業をとることが男性にとってメリットがあると書かれていて「・お互いをいたわる気持ちが増した。・悩みや大変さを共有し、孤独ではなくなった。・育休中に自信がついたようで職場復帰後も育児に参加している。」などがあがっていました。パートナーとコミュニケーションを取ることで子育てが主体的に行えるようになり、家事・育児の楽しさに変化していくのだと思います。

さて、おむつを入れる「マミーバッグ」をご存じでしょうか、最近リュック型もたくさん出ているようです。娘の出産を手伝いに行ったとき、娘のパートナーが新しいショルダーバックを購入し、見ているとおむつ、お尻ふき、ガーゼ、タオルなどをに入れて嬉しそうにしています。娘のマミーバッグは買ったのにとおもっていると、「僕のダイアパーバッグ*¹」と言って見せてくれました。また別のシーンでは母乳を授乳した後、夜中はパートナーがゲップをさせてベビーが眠るまで抱っこしています。その間母親は横になって休むことができました。



勝木 洋子さん
姫路日ノ本短期大学 学長

沐浴もはじめはこわごわでしたが、育児休暇中に上手になってどんどん素敵なパパになっていきました。

深谷昌志さん（教育社会学者）の調査で家事・育児をする父親は、そうでない父親より子どもからの評価が高い（かっこいい、仕事ができる、お金を儲けているなど）と書いておられたことを思い出しました。

コロナ禍の中で里帰り出産がままならず、祖父母世代が高齢者なら遠方への移動はリスクが高いため、頼れるのはパートナーしかいない現実がウィズコロナの時代にあきらかになりました。ステイホーム中に子育てのスキルを磨き、子どもからの評価が上がれば一石二鳥です。子どもは信頼できるおとなが側にいてくれることで気持ちもゆったりと落ち着きます。

コロナ危機を家族で乗り越える、素敵なスキルを身につけるチャンスだと思います。

安心して子どもを生み育てられる環境を1994年のエンゼルプラン*²のスタート以来、子育て支援のための施策としてあげられていますが、政策とともに家庭内での役割分担意識の改革や社会の男女共同参画推進も根底に流れる大きな課題だと感じます。

*1 おむつバッグ

*2 国の少子化対策として策定された、最初の体系的な子育て支援計画

